

埼玉・岩槻教会の時 1998 年には、くも膜下出血のため開頭手術を受けました。間もなく、大阪の玉出教会に赴任したのは、2001 年になっていたはずです。ここでの生活も珍しい経験がありました。9 年間の半ば過ぎ、教会学校のクリスマス・ページェントに出演依頼が来ました。今までやったことがありません。演劇経験者が演出です。ちょっと怖い感じがしました。役どころは宿屋の主人。良く知っているつもりで、軽く引き受けました。

幼稚園長時代、教師たちの指導を見ていました。セリフも体に染みついています。

「どこのお部屋もいっぱいですが、馬小屋ならば空いています。どうぞお泊り下さい。」

60 歳代半ばの自分が、演じるからには、観る人が納得するものでなければ、と思いました。

台本には、このセリフしかありません。

聖書を読みました。ルカ福音書 2:7、後半の一行。22 文字、

「宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」ここから考えました。

それにしても 2000 年にわたり、潤色し続けた人たちは、大したものだ、と感じ入りました。

宿屋の主人は、いったいどんな人だろうか？ 飲んだくれのゲー太郎！ 髪結いの亭主？

働き者だがうだつが上がらない朴訥な人。誠実な働き者。だから、家畜小屋もきれいにしておこうと考え、実行している。牛馬の糞尿で濡れそぼる敷き藁を掻き出し乾燥させる。

まさか旅の若い夫婦者を泊め、ここで出産することになるとは、考えずに掃除をしたのに違いありません。

新しい敷き藁を入れれば宿ることができ、出産に備えることもできる。よく考えている。

この旅人に必要なものは何か。夜露に濡れず、夜を過ごす場所、屋根の下。清潔であり、保温性が高いこと。大勢の旅人から隔離されていること。宮殿や客間ではないが、必要なお世話はできます。これを提供しましょう。